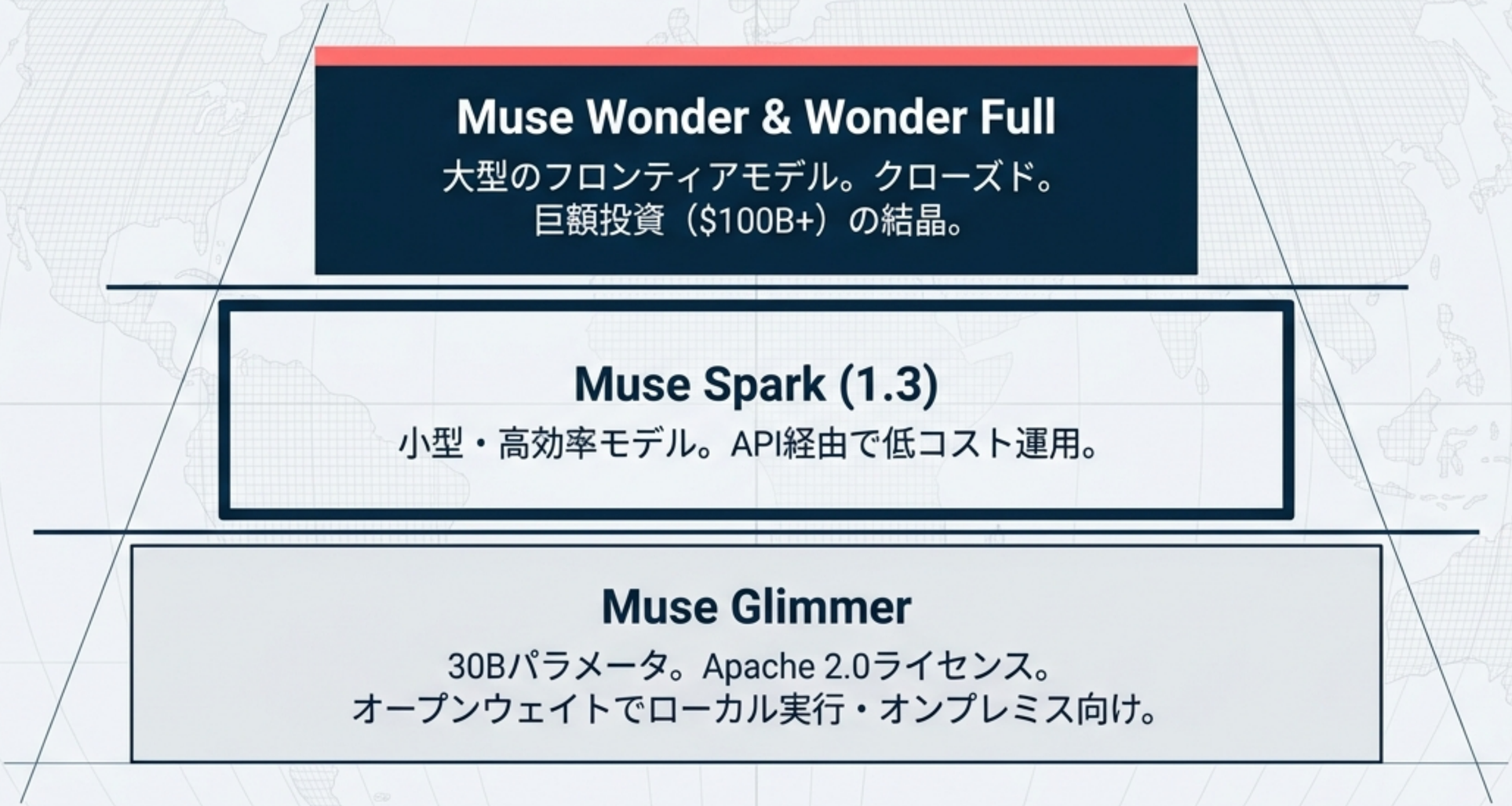
Meta「Muse Wonder」戦略・知財影響レポート

発表内容の検証、性能・提供条件、知財業務への影響 (2026年10月13日時点)

発表日	性能階層	知財リスク	推奨行動
2026年10月12日（米国）	フロンティア上位 (AA指数：56)	高（Contributorモードの初期設定）	ガバナンス指針の即時改定・検証テストの実施

Gemini Notebook

LlamaからMuseへ：MetaのAI戦略は3層構造に移行した



注目ポイント：Metaはオープンソース（Llama）を主軸から外し、真のフロンティアである「クローズドモデル」の領域へ本格的に回帰した。

Gemini Notebook

複雑な提供形態：標準版「Wonder」と上位版「Wonder Full」の明確な壁

Muse Wonder

位置づけ：標準版

提供経路：Meta Model API (Standardモード)

料金体系：入力$4.00 / 出力$20.00
（100万トークンあたり）

推論設定：「max」に設定してもFullと同等にはならない

Muse Wonder Full

位置づけ：上位版（最高性能）

提供経路：コーディング用サブスク「Muse Code」限定（※API提供なし）

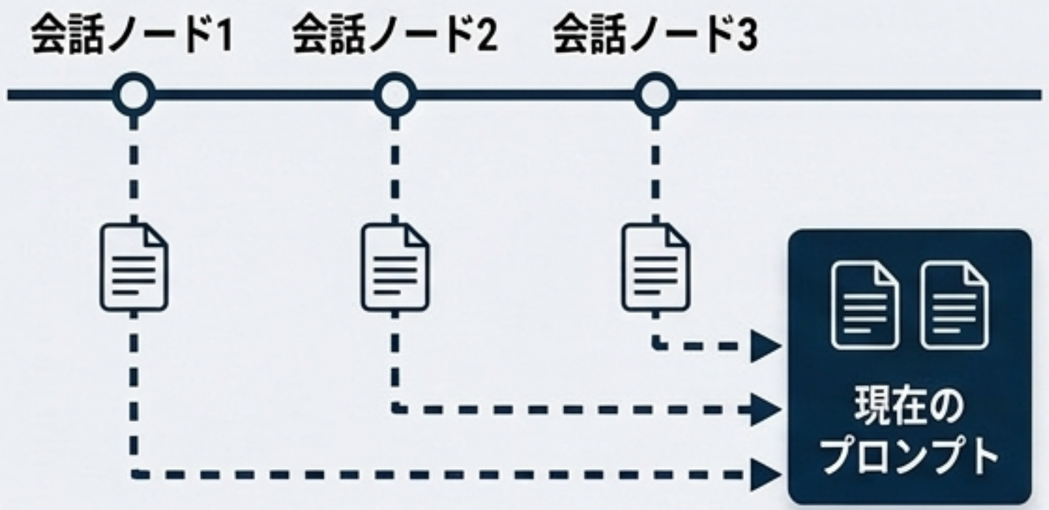
料金体系：月額$50（Power Usage）または$200（Maximum Usage）

両モデル共通：104万トークン（1,048,576）の超長文コンテキストウィンドウ

Gemini Notebook

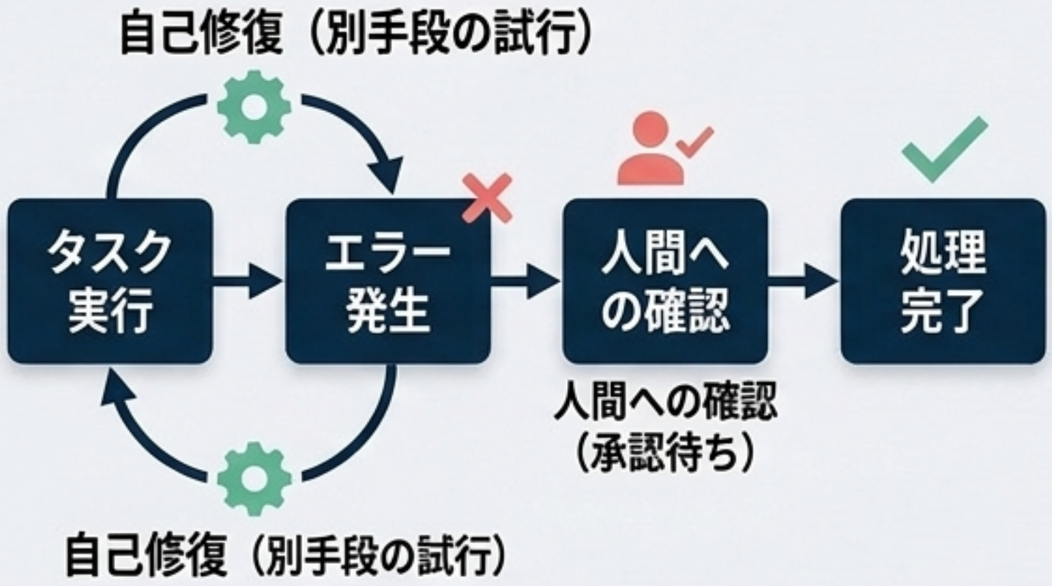
単なる言語モデルから「自律型エージェント」への進化：2つの中核機能

Active Memory



会話をまたいで重要な文脈を保持し、
必要なときに自律的に取り出す機能。

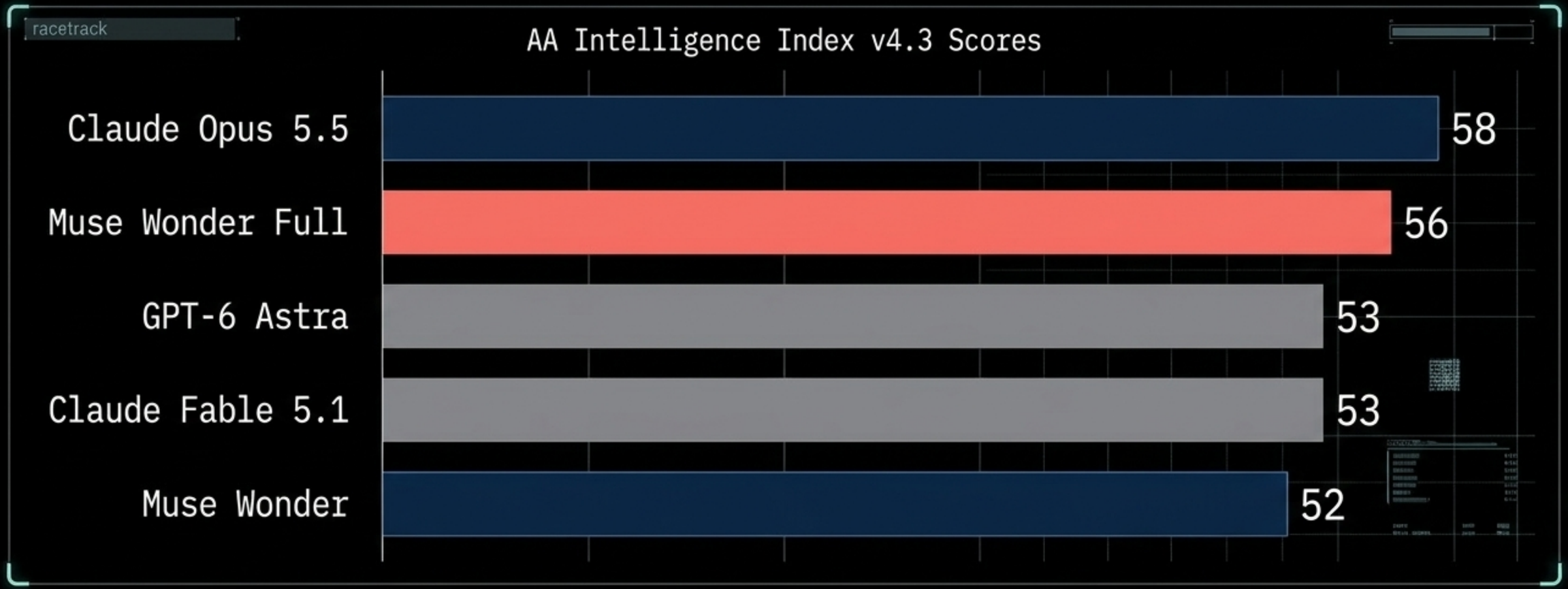
Active Focus



困難なタスクでもエラーから復旧し、重要な行動の前
にユーザー確認を挟んで最後までやり遂げる機能。

Gemini Notebook

フロンティアモデルの激戦区で、OpenAIを抜き2位の座を確保



Vals AI IndexでもWonder Fullは全47モデル中5位（64.57%）にランクインし、OpenAIの最上位モデルを上回った。

Gemini Notebook

極端な性能特性（Spiky Profile）：高い論理処理力と、低い内蔵知識



Harvey LAB-AA（法務エージェント評価）

13.1%

比較対象中で圧倒的首位。GPT-6 Astraは8.6%

渡された文書の読解と、指示に従った
法務成果物の作成能力は世界最高水準。



AA-Omniscience（知識の正確さ）

30点

Claude Opus 5.5の46点に比べ著しく低い

モデル自身の記憶や知識に頼るタスクでは、
ハルシネーション（Wonder Fullで23%）のリスクが高い。

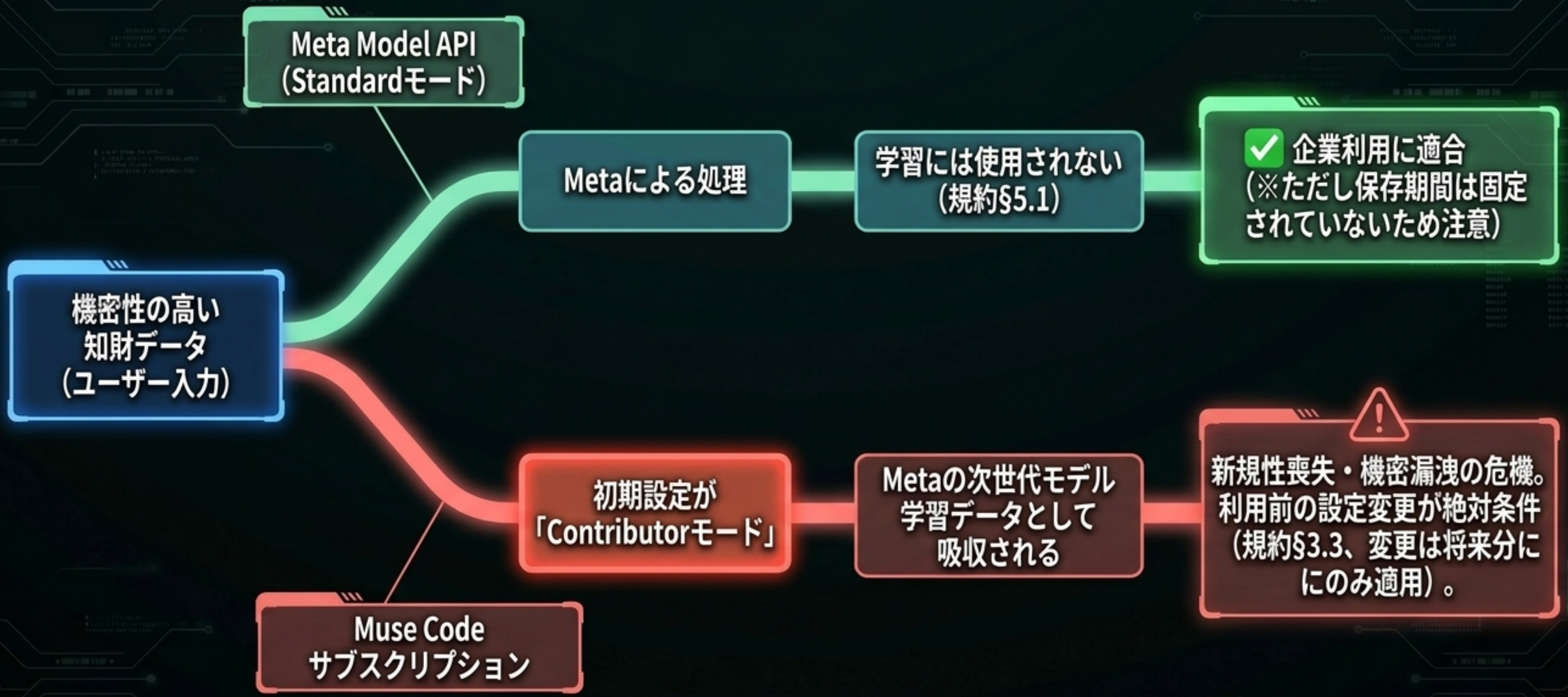
Gemini Notebook

知財・法務業務への適用マトリクス：得意領域とリスク領域の明確な区分

対象業務	適用適性	判定理由
先行技術・無効資料・FTO調査	不適	知識評価が低く、モデルの記憶に頼った文献想起はハルシネーションの危険が極めて高い。
明細書作成・クレームドラフティング	条件付き適合	長大なコンテキスト（100万）で図面や実施例を一括処理可能だが、日本語特許文体の品質は未検証。
中間処理・拒絶理由対応	最適	引用文献と明細書を全て投入し、補正案の骨子を作る作業は、首位を獲得した「LAB-AA」の形式に最も近い。

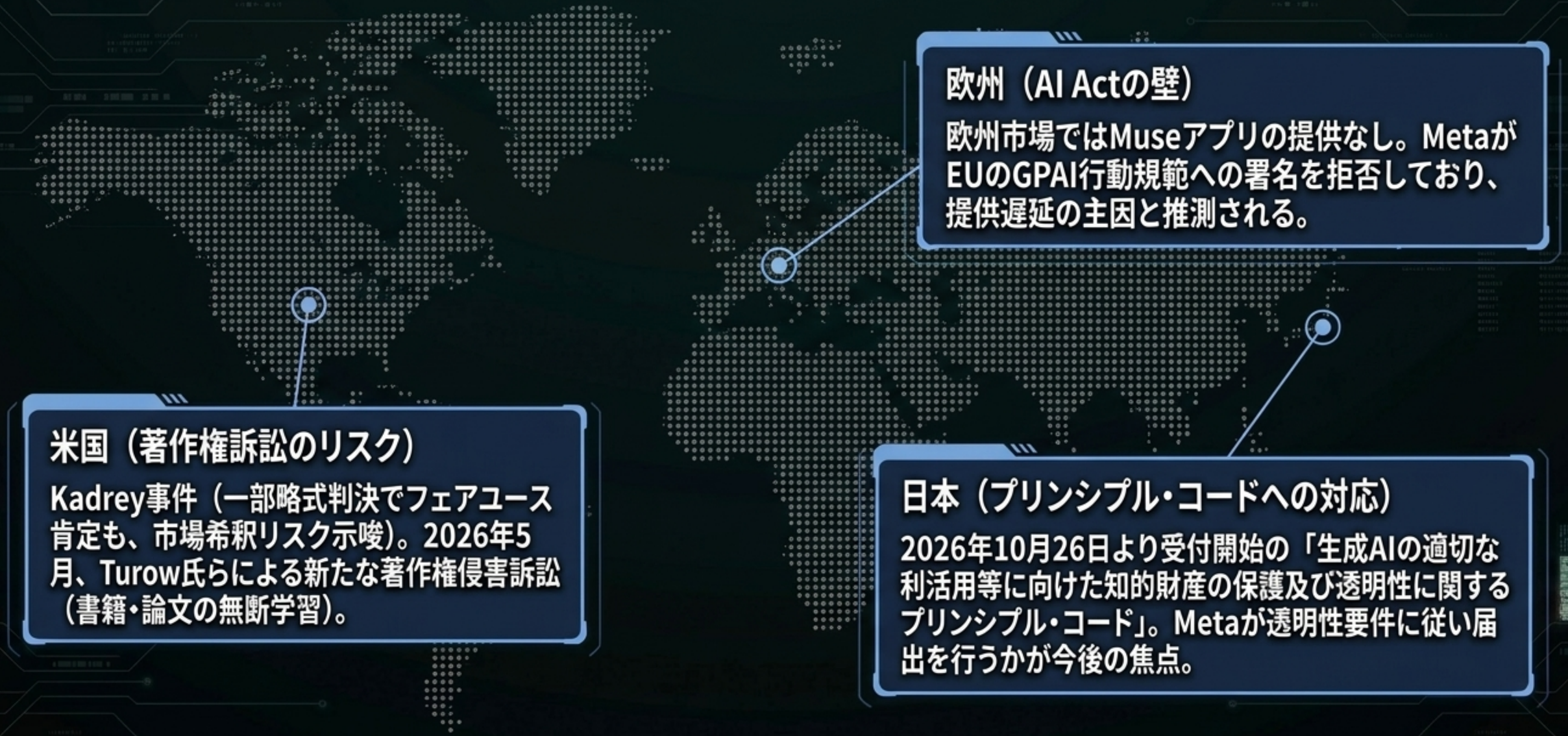
Gemini Notebook

企業ユーザーの最大リスク：「Contributorモード」による学習データの意図せぬ流出



Gemini Notebook

グローバル展開を阻む法規制と著作権訴訟の逆風



欧州（AI Actの壁）

欧州市場ではMuseアプリの提供なし。MetaがEUのGPAI行動規範への署名を拒否しており、提供遅延の主因と推測される。

米国（著作権訴訟のリスク）

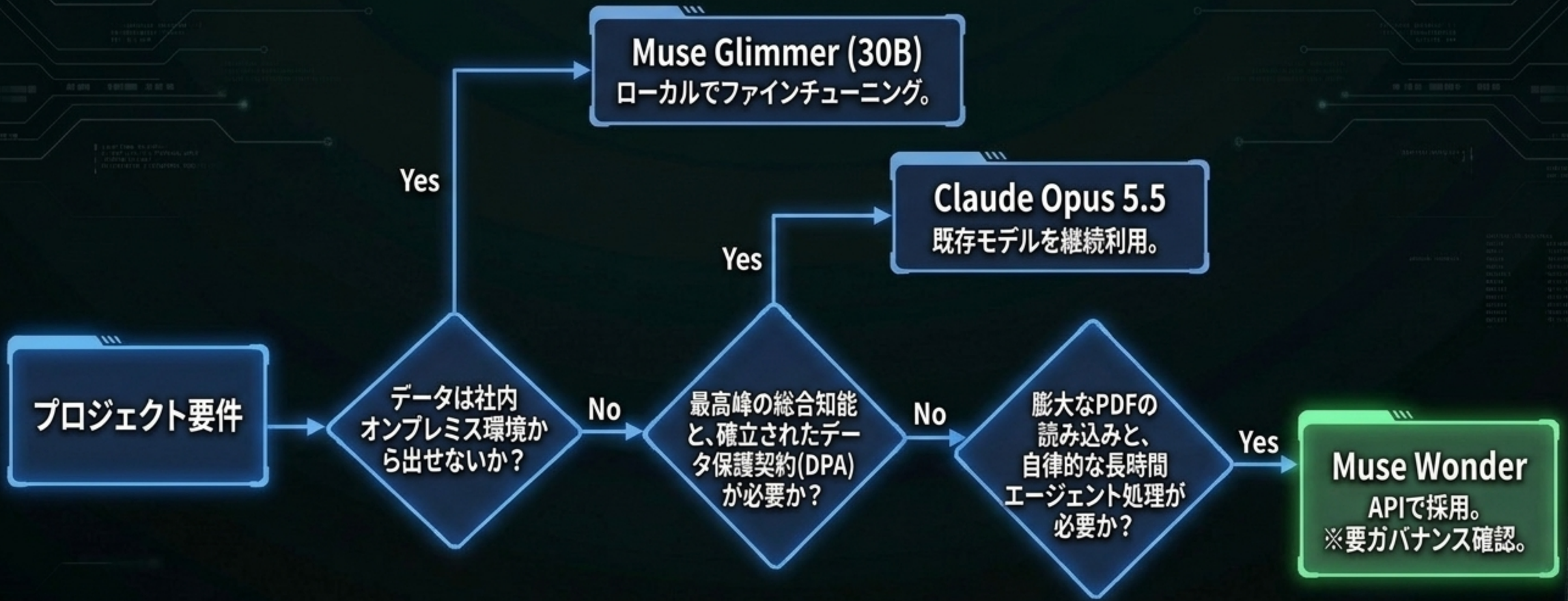
Kadrey事件（一部略式判決でフェアユース肯定も、市場希釈リスク示唆）。2026年5月、Turow氏らによる新たな著作権侵害訴訟（書籍・論文の無断学習）。

日本（プリンシプル・コードへの対応）

2026年10月26日より受付開始の「生成AIの適切な利活用等に向けた知的財産の保護及び透明性に関するプリンシプル・コード」。Metaが透明性要件に従い届出を行うかが今後の焦点。

Gemini Notebook

エンタープライズ展開のためのモデル選定ディシジョンツリー



Gemini Notebook

企業知財・IT部門が直ちに行うべき「最初の90日」のアクションプラン

即時検証（0-3ヶ月）

- 公開済みの特許・審査書類を使用し、Claude Opus 5.5、GPT-6 Astra、Wonderの3モデルで「中間処理案と対比表作成」のブラインドテストを実施する。
- 日本からのAPI利用可否とデータ処理条件（DPA）を一次ソースで再確認する。

ガバナンス更新（即時対応）

- 社内AIポリシーを改定し、「Contributorモード」の利用を明示的に禁止する。
- 自律型エージェントの出力結果に対する「事実検証の義務化」を社内規定に追加。

規制監視（6-12ヶ月）

- EUおよび日本でのサービス展開状況、日本政府のプリンシプル・コードへのMetaの届出動向を継続監視する。
- オンプレミス需要向けにGlimmerの導入検討を開始。

Gemini Notebook